

国立大学法人富山大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを理念としている。第2期中期目標期間においては、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、リサーチマインドを持った総合診療医の育成及び地域の特性に根差した特色ある研究を推進するため、「とやま総合診療イノベーションセンター」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

大学改革推進本部（本部長：学長）を設置し、ミッション再定義や国立大学改革プラン等を踏まえ、理工系人材育成のための組織整備や定員規模の見直し等に関する大学改革全般の課題について検討を進めたほか、10年後の富山大学を見据えた戦略やグランドデザインをテーマに、30代、40代の教職員を中心に構成する富山大学将来構想検討ワーキング・グループを設置して「富山大学将来構想検討ワーキング・グループからの提言－10年後の富山大学を見据えて今やらなくてはいけないこと」を取りまとめるなど、大学改革の検討を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 退職した教員をコーディネーターとして採用し、科学研究費助成事業の申請に当たってアドバイスをを行う等の取組を行ったことにより、科学研究費助成事業の平成 25 年度受入総額は、9 億 4,500 万円（対前年度比 1 億 3,826 万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 共同利用スペースとして新たに 4,122 m²を確保したことにより、大学全体として 28,670 m²（共同利用化の比率として 22.4 %）となり、平成 25 年度において、第 2 期中期計画の目標数値（共同利用化の比率おおむね 20 %）を達成している。
- 受水槽に緊急遮断弁を設置したことにより、災害時には 5 万人分の飲料水を確保できることとなり、地域への支援も可能にしている。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 過年度において、職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。
- 教員が教員選考の際の業績目録、各種研究助成金関係の申請書類、ウェブサイトの教員紹介等に、研究業績の虚偽記載を行っていた事例があったことから、研究倫理教育の強化を図るなど、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長の判断に基づく機動的経費で創造性に富んだ研究者を育てることを目的に「平成 25 年度学長裁量経費による研究員の取扱い」を策定し、富山大学大学院博士課程を修了したポスドクを 5 名採用している。
- 富山県教育委員会と連携して「富山型教員養成プログラム」の開発に向けた実態調査を実施し、実態調査を基に「富山型教員養成プログラム」を開発し、教員内定者を対象とした教師準備プレ講座を試行的に実施している。
- 社会人を対象とした産学連携人材育成事業「次世代スーパーエンジニア養成コース」において、専門技術論について産業界と大学教員の意見交換を重ね、産業界のニーズを取り入れ科目構成を再構築した結果、延べ受講生が平成 24 年度と比較して 1.5 倍強の 224 名となっている。

共同利用・共同研究拠点関係

- 和漢医薬学総合研究所では、和漢薬を用いた感染症治療薬の開発や新規感染症治療体系の展開を目指し、長崎大学熱帯医学研究所と、脳マラリアのマウスモデルを用いた共同研究を実施し、漢方薬が神経症状を改善させ、脳マラリアでの死亡率を減少させることを解明している。また、がん治療薬の創薬開発や和漢薬を取り入れた新たながん医療体系の展開を目指し、金沢大学がん進展制御研究所とジョイントセミナー等を実施するなど、拠点間の連携を強化している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 医学生（6 年次生、5 年次生）に対する臨床研修説明会、懇談会や個別面談の継続的な実施により、臨床研修プログラムの特徴を積極的に PR し、初期臨床研修希望者の増加に努めたほか、海外でも活躍できる医師の養成に向けて、医学部 6 年次生の海外での選択制臨床実習参加（米国、英国、フランス、ドイツ、韓国、マレーシア）を支援している。

(診療面)

- 病院総合情報システム、医事会計システム等、主要システムのサーバ室に免震対策

を実施するとともに、診療情報を外部のデータセンターへ保管するバックアップ体制を整備し診療情報を保護することにより、インフラの遮断等があった場合でも、直ちに診療を行える仕組みを構築している。

(運営面)

- 病院職員の勤務環境の改善を図り、看護師の育児短時間勤務制度の利用者は1名、育児部分休業利用者は31名で、7：1看護体制維持につながった。また、平成25年度における育児休業者（女性医師、看護師、薬剤師等）の復職率は100%となっている。